

夏越祭

(七月二十九日)

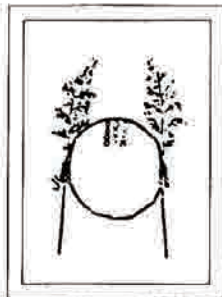


昨年の茅の輪をくぐる善男、善女

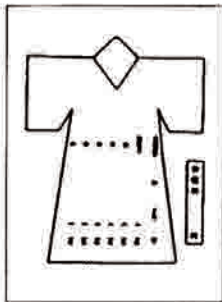


カキ氷、風せんつり、福引

産土
神
守護



形代 (表)



形代 (裏)

夏越の大祓神事を七月二十九日午後六時より執り行います。
 社頭に茅チガハの輪マノワを設け、その茅の輪をくぐれば、悪疫を免れ幸福と繁栄とを招来するという古式に則った夏越祭を厳修致します。

ご参拝の方は左記の形代に御家族の住所、氏名、年令を書いて、各自の息を吹きかけ初穂料を納めお参り下さい。

ご参拝の方には「お札」と「茅」を授与致しますので、魔除として、玄関に奉斎して下さい。

当日、お参り出来ない方は前もって社務所で形代をおあずかり致します。

岡田宮

— (宝永四年) 一七〇七年 貝原益軒書 —

第 23 号

平成9年7月吉日

発行 岡田宮社務所

北九州市八幡西区岡田町1番1号

郵便番号 806

電話 (093) 621-1898

FAX (093) 621-5330

明治天皇御製

一、国民もつねに心をあらはなむ
みもすそ川の清き流に。

神社総代研修会

三月三十一日晴

末益友之助総代会長以下四十四名を乗せたバスは佐賀県大町町鎮座の大町八幡神社に向けて出発。

参加者最高年長は九十六才の平木さ



ん。途中、多久聖廟に寄って孔子様におまいりし、神社に到着後、正式参拜。腰の曲がられた花園宮司様が、わざわざバス通りまでお迎えに来ていただいたのは大変感激を致しました。

昼食後、御船山庭園見学。すばらしい公園で岡田公園も将来は、こういうふうになればいいなと思いました。帰りにはチョットしたハブニングもありましたが、全員無事に帰りました。

今回も多く神社関係の研修をしてまいりましたので、今後の神社運営に反映していきたいと思えます。

郷土地名考 (23)

寿命 (じめ)

ジメ。若松区乙丸に寿命貝(ジュミョウガイ)の説話があるがこれは伝承とは関係なさそう。寺免もしくは神免、地免、免税地に由来するのではなからうか。有名なのは寿命の唐戸。

一六二〇年(元和六)黒田長政は水田灌漑、運送のために遠賀川から洞海湾に

通じる運河・堀川の開削に着工。その起点が寿命だった。工事は途中お家騒動などで頓挫、一三〇年後の宝暦元年、六代藩主継高のときに再開して中間惣社山まで開通した。これが中間の唐戸。寿命の唐戸は一八〇四年(文化一)に完工している。

唐戸地名は多い。小倉南区にもあるし、門司港と本土をつなぐ渡船の下関市唐戸もある。唐の字や音韻から古代唐、韓に由緒を求める傾向がないといえないが、内陸部の水門につけた唐戸は当て字、水量を調節するカラクリの戸ということだ。

折尾 (おりお)

中世折尾郷、文献の上で地名起源は見つからない。

折尾のオリは降りるであろう。尾は村はずれ、地続きといった意味もあるが、峰、山の稜線、尾根を指すことが多い。尾地名はたいがい高い場所にある。尾から降りたところにオリがある。実際折尾はどこから行くにも、トンネルや峠を越えなければならぬ。

また折を文字どおり折れると解釈すると、尾根が折れ重なったところになる。降りると解釈しても、折れると読んでも地形に由来する説明は成り立つ。ところで、ここは黒田家の在地領主・山鹿秀遠の所領であったが、壇の浦の

合戦で敗退、頼朝の家臣・麻生重業が横領した。すなわちオウリョウ地の転化オリオというのが私の判断である。文献に折尾の記載が初出するのがそれから二六〇年後というのも、古代の人が呼んだ地理地名ではなく、歴史地名であろうという推測である。

浅川 (あさかわ)

北は洞海湾の二島と遠賀川を結ぶ江川、西は遠賀川の支流曲川に囲まれたデルタ地帯。古洞海はここまで湾入し大船も通っていたとい、海退と耕地の広がりによって僅かに潮水が通じる程度に浅くなったから浅川とは、郡誌の分かり易い説明だ。江川は秀吉が朝鮮出兵の際芦屋に向かって通過し、巡検使の海上コースでもあったという。

元来筑前領で遠賀郡江川村に属したが明治になって島郷村、昭和になって若松市、一九七四年(昭和四十九)から八幡西区になった。

浅川台は元日炭高松の社有地だったが県住宅公社の浅川団地をはじめ、新興住宅団地になっている。

江川と曲川、遠賀川が合流したところが満潮のとき海嘯が起こる場所であることを「三つ頭」と呼ぶ。

七五三

七五三祭は、子どもの成育にとともに折り目、折り目に神社にお参りして、いっそうの息災成長を祈る行事です。

三歳の祝いを髪置、五歳の祝いを袴着、七歳の祝いを紐落などと称しますが、これらの名称や、その年齢は地方により、時代によって必ずしも一定しませんが、ともあれ、七五三は江戸時代から、広く行われた行事で岡田宮では、十一月十五日を当日とし、その前後を通じてにぎやかなお参りが行われます。なお、平成九年の七五三の年齢は、左記のとおりですので、ご家族おそろいでお参り下さい。

記

三歳 平成七年生

五歳 平成五年生

七歳 平成三年生

※年齢はかぞえ年です。

※毎日午前九時より午後五時まで受付をしています。



神社 なぜ 問答

(その23)



◆ おみくじを木に結ぶ人が多く見られますが、これは神道上どのような意味があるのですか。

この答えはそもそも日本人にとって結ぶという行為が如何なる意味があるのか、考えることにもつながります。「結び」という行為の中に古来私たちは実に様々な観念を育んできました。普段の生活の中でも「熨斗袋」の水引の結目などは、用途によって色々な種類があります。また結ぶという行為

に神秘的な力を信ずることもあります。万葉集に有名な有馬皇子の歌があります。「磐代の濱松が枝を引き結び眞幸くあらばまた還り見む」

この歌には、謀反の厭で進行される有馬皇子の心情があふれています。常磐の松の生命力にあやかり、松の枝を結んで長寿を祈ったのです。結果的に皇子は処刑されてしまいます。その分よけいに悲しいひびきがあります。松の枝を結ぶ行為は、当時民間によく行われていたようです。

宮中の鎮魂祭に於ては天皇の御衣を打振り、ひもを結ぶ作法があります。魂が身体から遊離するのを防ぎ、鎮める呪法とされます。

大祓の中には解繩という呪法もあります。縄をとくことにより罪穢を模倣的にとき散らすのです。

さて、この辺で本題に入りましょう。おみくじを何故木の枝に結ぶか、ですが、こうした日本の伝統からすれば、当然願いが結ばれるように、との祈りが込められていると考えるのがよいでしょう。しかも生命力あふれる木枝に結ぶのも、その力にあやかる気持ちが無意識の中にあると思います。

凶のみくじにあたった場合は、片手で結ぶとよいとも言います。本来、両手で結ぶのが当たり前ですが、わざと異常な状態をつくり出して、凶を祓う意識がそこにはあるのでしょうか。

神社によっては「おみくじ結所」を設けていますので、そこに結んで下さい。



心

三つの声

天よりの声がきこえる

過去を見よ なんじ勝てりや再び第二の声がきこえる

現在を見よ なんじ勝てりや更に第三の声がきこえる

立ちあがれ

いま勝つ者が永久に勝つ

零たす零の継続

合計いくばくなりや

刻々の勝利が

最後の勝利をつくる

欠陥

欠陥がみえる

なんとかしたい

自分でできる

しからば

その欠陥に身をなげよ

それがおん身の使命である

欠陥より欠陥へと

身をささげる生涯が

使命より使命への

充実した生涯である

参道に手摺奉納

—お年寄りの方々も

お参りしやすくなりました—

昨年の暮れに参道の階段部分に延べ百mの手摺が奉納されました。

奉納されたのは、紅梅町にお住まいの故木村貞博さんと奥様の松江さん。

お二人は敬神の念厚く、ご夫婦でよく参拝にいられておりましたが、昨年ご主人の貞博さんが病死され、奥様が故人の意志を継がれて、お年寄りの人たちが階段を登りやすい様にとステンレス製の手摺を奉納されました。

ご主人様のご冥福を心からお祈り致します。



楽しい雰囲気・明るいスタジオ

(株) 有川写真館

証明写真から記念写真まで
各種お撮りしています。

岡田宮内にスタジオ完備

☎ 0120~622~080



北九州プリンスホテル、ベベ2F
インドアブル前にオープン

各種衣裳取りそろえております。
☎ 0120~620~753